

「協同組合」のユネスコ無形文化遺産登録に関する
国際協同組合同盟（ICA）チャールズ・グールド事務局長の
2016年12月21日付ブログ記事¹
（JJC 仮訳）

2016年が終わりに近づき、この1年に成し遂げたことを振り返り、新しい年にどのように最高の成功を達成するか考えているこのときに、私たちはユネスコ（国連教育科学文化機関）からすばらしいニュースを受け取りました。11月にユネスコが協同組合を人類の無形文化遺産のリストに加えたのです。

多くの方は、すばらしい普遍的価値を持つ、ユネスコの世界遺産の遺跡や場所のことを聞いたことがあると思います。ユネスコは2003年、人間の経験は有形の場所や遺跡によってのみでなく、実践や伝統によっても同様に明確にされることを認めるため、無形文化遺産のリストを作ることにしました。

「協同組合において共通の利益を形にするという思想と実践」が、このリストに含まれたことは、ドイツにおける協同組合の仲間、とりわけ、ヘルマン・シュルツェ＝デーリチュ協会とフリードリッヒ・ヴィルヘルム・ライファイゼン協会の仲間の努力の成果です。申請は、関連するユネスコ条約の締結国である国連加盟国からなされる必要があります。これらのドイツの2つの協会は、ドイツの国が協同組合を申請するよう働きかけました。実は、今回の申請はドイツが提出した初めてのもののなのです。

申請と一緒に約8分のビデオ（ドイツ語。英語字幕つき）が提出されました。このビデオは、なぜ協同組合が無形文化遺産に値するかということ、とてもうまく伝えています。新旧のドイツの事例からスタートし、続けて協同組合が世界に与えたインパクトを表現しています。全体を見ていただく価値があるものです。²

協同組合の無形文化遺産のリストへの登録を訴えるため、ドイツ政府はこう書きました³。「協同組合は、共通の利益を明確にし、形にすることを可能にし

¹<https://www.linkedin.com/pulse/unesco-recognises-co-operative-model-charles-gould?trk=prof-post>

² このビデオは、次のウェブサイトに掲載されています。

<http://www.unesco.org/culture/ich/en/RL/idea-and-practice-of-organizing-shared-interests-in-cooperatives-01200>

³ この部分はドイツからの申請書からの抜粋です（1のivおよびv、3aのii）。英文の申請

ており、したがってコミュニティを創り上げる実践である。このことが協同組合のもっとも重要な文化的な資産である。なぜなら、こうした市民の能力は、社会の社会的・環境的な問題に対する革新的で実行可能な解決に大きく貢献できるからだ。…協同組合の仕組みは、共同所有者となり共通の目的の実現のために集った個々人との相互理解を進める。協同組合の原則は、社会的・文化的・解放的・経済的な発展を促進する。…グローバル化のプロセスのより公正な発展のために、協同組合は努力している。」

世界の人々が、恐ろしいできごとから逃れようとし、また、逃げないまでも、想像できなかつたような選挙結果をもって警告を発しているこのときに、これ以上のことがあるでしょうか。人々をより緊密に結びつけ、人々に一体性と持続性の感覚をもたらすことにおいて、ひとつの重要な力だと認識されること以上のことがあるでしょうか。協同組合の1世紀以上にわたる取り組みを反映し—遺産とはそういうものですが—、ユネスコによる今回の登録は、世界の協同組合運動の今年の大きな達成の一つです。

以上

書は下記のウェブサイトで見ることができます。

<http://www.unesco.org/culture/ich/en/RL/idea-and-practice-of-organizing-shared-interests-in-cooperatives-01200>